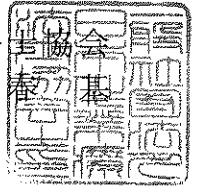


日作協発 第726号  
平成29年3月6日

厚生労働省 医政局 医事課  
試験免許室 御中

一般社団法人 日本作業療法  
会 長 中 村



### 第52回作業療法士国家試験問題について（意見）

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より当協会の活動にご支援ご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、2月26日に実施されました第52回作業療法士国家試験問題につきまして全国の作業療法士学校養成施設に問題の妥当性についてアンケート調査を実施しましたところ、186校(199課程)中121校(65%)から「適切でないと思われる」とする回答がありましたので、それらの回答について次の3つの方針に基づいて検討を行いました。

- (1) 全国の作業療法士学校養成施設から寄せられた「国家試験として適切でないと思われる問題」のみを検討の対象とすること。
- (2) 当協会担当部署においてさらに検討を重ね、「国家試験として適切でないと思われる問題」に限定して意見を具申すること。
- (3) 国家試験問題の範囲や難易度についての意見を具申するものではないこと。

その結果、設問内容の適切さ及び出題形式（図や設問の説明）について下記の意見を述べさせていただきます。また、特に検討していただきたい8つの問題（午前2問題、午後6問題）につきましては、別紙に内容を記載し、併せて具体的な理由を付記いたしました。

ご検討の程よろしくお願い申し上げます。

謹 白

### 記

- I 複数の解が選択できると思われる5問題（午前70、午後15・29・55・94）について、複数の選択肢を正解とすることが望ましいと考える。また、提示された選択肢からは解を選択する判断ができないと思われる3問題（午前1、午後8・59）について、採点から除外することが望ましいと考える（別添資料1参照）。
- II その他の意見  
用語や設問の表現が不適切であり選択肢の理解に戸惑う1問題（午前38）、消去法や優先順位等から解は選べるものの他の選択肢も該当する可能性がある2問題（午前41、午後62）があると考えます。

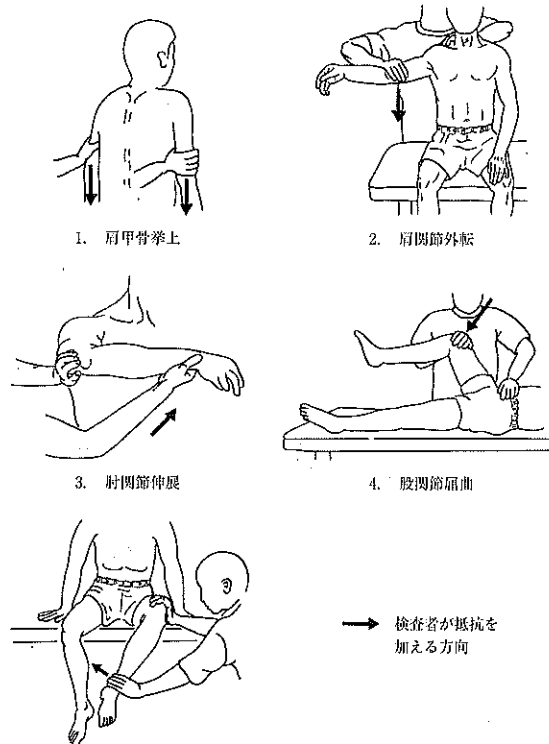
第 52 回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成 29 年 2 月 26 日実施)

午前 問題

問題番号 ( 1 )

1 Danierulsらの徒手筋力テストの段階5及び4の検査で正しいのはどれか。2つ選べ。



解：2のみ

理由

問題文には2つ選べとあるが、正答は選択肢「2」のみである。

1. 肩甲骨抵抗をかける部位が異なる（参考とする文献：肩甲骨挙上 p90-93）。
2. 正答（参考とする文献：肩関節外転 p118-122）。
3. 選択肢は除重力位で行なっており、抗重力の検査を行う肢位が異なる（参考とする文献：肘関節伸展 p144-148）。
4. 抗重力の検査を行う姿勢が異なる（参考とする文献：股関節屈曲 p206-210）。
5. 抵抗を加える方向が逆である（参考とする文献：股関節外旋 p236-238）。

したがって、解は「2」のみである。

参考とする文献

1. Helen J. Hislop, Dale Avers, Marybeth Brown 著 津山直一, 中村耕三 訳:新・徒手筋力検査法 原著第9版. 協同医書出版. 2014.

第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午前 問題

問題番号 ( 70 )

70 肩甲骨の運動とそれに作用する筋の組合わせで正しいのはどれか。

1. 挙上 ——— 小胸筋
2. 下制 ——— 鎖骨下筋
3. 外転 ——— 僧帽筋
4. 内転 ——— 菱形筋
5. 下方回旋 ——— 前鋸筋

解：2、4 (複数の解が選択できる)

理由

選択肢「1」、「3」、「5」は誤っている。

文献1、2、3、4より、肩甲骨を内転する筋として、僧帽筋中部線維、菱形筋とあり選択肢「4」は正解となる。また、肩甲骨を下制する筋に鎖骨下筋、小胸筋、大胸筋、広背筋とあり、選択肢「2」も正解となる。

なお、文献5より、肩甲骨の下制に働かない筋として、大菱形筋が正解になっている。他の選択肢にある肩甲下筋は下制する筋となるため、選択肢「2」も正解となる。

したがって、選択肢「2」、「4」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 中村隆一，齋藤宏，長崎浩：基礎運動学 第6版補訂. 医歯薬出版. p221, 2016.
2. 奈良勲，鎌倉矩子：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学. 医学書院. p96, 2012.
3. 島田智明，有馬慶美：カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版. 医歯薬出版. p173, 2012.
4. 細田多穂：シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト. 南江堂. p135, 2010.
5. 第48回作業療法士国家試験 午後74

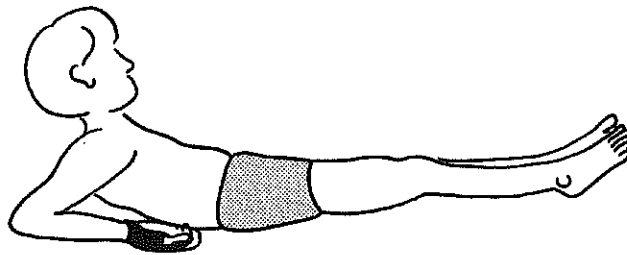
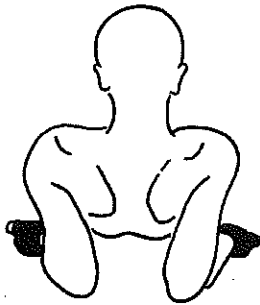
第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午後 問題

問題番号 ( 8 )

- 8 20代の男性。頸髄損傷完全麻痺(Zancolliの四肢麻痺上肢機能分類C6B2)。仰臥位から長座位への垂直方向の起き上がり動作獲得のために練習を行っている。図に示す肢位で肩甲帯を左右に振り重心を移動することを繰り返す。  
正常以上の関節可動域拡大を目的とした関節運動はどれか。



1. 頸部伸展
2. 肩甲骨外転
3. 肩関節水平伸展
4. 肩関節内旋
5. 肩関節外旋

解なし

理由

文献1によれば、問題文の「頸髄損傷完全麻痺(Zancolliの四肢麻痺上肢機能分類C6B2)」におけるC6B2のレベルでは、垂直方向の起き上がりができない。基本的な方法は、まず寝返りを行い、上体を半腹臥位から両側肘荷重(on elbow)とし、体幹前屈位を経て座位とする方法である<sup>1)</sup>。設問文の垂直方向の起き上がりができるのは、C6B3からである<sup>1)</sup>。

したがって、設問文に不備があるため解答を選択できない。

参考とする文献

1. 二瓶隆一, 木村哲彦他: 頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第2版. 協同医書出版. pp125-127, 2007.

第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午後 問題

問題番号 ( 15 )

15 32歳の女性。統合失調症。デイケアに通所しているが、いつも人を避けるように過ごしていることが多い。スタッフが面談の中でその理由を尋ねると「会話をしていると、途中から何を話しているのかわからなくなります。それが怖くて人と話をする自信がないです」と訴えた。

この患者の症状の評価で最も適切なのはどれか。

1. GAF
2. BADS
3. WCST
4. Rehab
5. BACS-J

解：1、5（複数の解が選択できる）

理由

本症例は、思考障害（思路の障害）により、対人関係に制限が生じていると考えられる。症状の評価としては、BPRS等の症状評価尺度を使用する方が望ましいが、選択肢にはない。症状と社会的生活機能の全体的評価をするという意味では1のGAFが選択できる。また、この訴えの背景に認知機能の障害がないかを確認するために、5のBACS-Jを使用することも誤りとは言いきれない。

したがって、複数の回答が選択できる。

参考とする文献

1. 上野武治編集：標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版. 医学書院. p61, 2015.
2. 香山明美, 小林正義, 鶴見隆彦：生活を支援する精神障害作業療法急性期から地域実践まで第2版. 医歯薬出版. p75, p100, 2014.

第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午後 問題

問題番号 ( 29 )

29 道具の把握形態において、編み棒と同じ手の構えをとる道具はどれか。

1. スプーン
2. 千枚通し
3. つまようじ
4. 筆
5. 包丁

解：2、5（複数の解が選択できる）

理由

文献1より、編み棒を使うは握力把握-示指伸展型の代表例として記載されている。同項目には千枚通しを使う、フォークを使うなどが記載されているため、選択肢「2」は正解となる。しかし、その後の文章に「握力把握-示指伸展型と握力把握-標準型は入れ替え可能な関係にあるが、場面によっては、握力把握-示指伸展型を使った方が有利になる」とあり、握力把握-標準型の代表例として図に包丁が記載されているため、選択肢「5」も正解となる。なお、編み棒自体も両方の構えをしている人がいる可能性があり、選択肢「2」と「5」も握力把握-標準型もしくは握力把握-示指伸展型の構えをしている人がいる。

したがって、選択肢「2」と「5」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 鎌倉矩子, 中田眞由美: 手を診る力をきたえる. 三輪書店. pp27-31, 2013.

第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午後 問題

問題番号 ( 55 )

55 脛骨と腓骨の両方に付着する筋はどれか。

1. 大腿二頭筋
2. 半腱様筋
3. 前脛骨筋
4. 後脛骨筋
5. 短腓骨筋

解：1、4（複数の解が選択できる）

理由

選択肢「2」、「3」、「5」は誤っている。

養成教育で広く利用されている文献1と文献2によれば、選択肢「1」と「4」は脛骨と腓骨の両方に付着すると明記されている。

したがって、選択肢「1」と「4」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 中村隆一 他：基礎運動学 第6版. 医歯薬出版. p242, p253, p264, 2003.
2. Helen J. Hislop et. al, 訳 津山直一 他：新・徒手筋力検査法（原著第9版）. 協同医書出版. p243, p261, p264, p267, 2014.

第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午後 問題

問題番号 ( 59 )

59 腎臓の解剖について正しいのはどれか。

1. 糸球体は腎髄質に位置する。
2. 輸出細動脈は集合管につながる。
3. ネフロンは糸球体と尿細管からなる。
4. 輸入細動脈はHenle係蹄につながる。
5. 腎乳頭はBowman囊に覆われている。

解なし

理由

文献1によれば、選択肢「1」、「2」、「4」、「5」は誤っている。

選択肢「3」では、「ネフロンは1個の腎小体と（Bowman囊と糸球体）と1本の尿細管からなる」と明記されており、糸球体と尿細管のみではネフロンと回答することはできない。

したがって、適切な解答が選択できないため、解なしとする。

参考とする文献

1. 野村 巖 編：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第4版, 医学書院, pp392-393, 2015.



第52回作業療法士国家試験問題 採点除外等の取り扱いをすることが望ましいと思われる問題

(平成29年2月26日実施)

午後 問題

問題番号 ( 94 )

94 血友病について正しいのはどれか。

1. 脾腫がみられる。
2. 血小板数が減少する。
3. 点状紫斑がみられる。
4. 膝に関節症をきたす。
5. 自己免疫疾患である。

解：3、4（複数の解が選択できる）

理由

血友病の症状は、乳児期と学童期にそれぞれ以下が挙げられる。乳児期には点状紫斑状出血を呈する。学童期には、足・膝・肘関節への出血と熱感・腫脹および激しい疼痛、腸腰筋出血（血腫）などを呈する。

よって選択肢「3」は乳児期に呈するため正答にあたる。また、「4」は学童期に呈する症状である。

したがって、「3」「4」の複数の解が選択できる。

参考とする文献

1. 奈良 勲, 鎌倉 矩子 : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第4版. 医学書院. p179, 2013.